

## 令和5年度第1回大野城市芸術文化振興審議会会議録

日 時：令和5年4月21日（金）10:00～12:00

場 所：市役所本館3階 庁議室

出席者：委 員 安河内俊明会長、長津結一郎副会長、糸山裕子委員  
中嶋真理子委員、豊永蘭子委員、松吉典子委員、  
齋藤廣樹委員

事務局 中原コミュニティ文化課長、中川コミュニティ文化課芸術文化担当係長、  
辰野主任主事、手島主事

欠席者：小林京子委員

- 資 料 【資料1】令和5年度までのスケジュール（案）  
【資料2】令和5年度スケジュール（案）  
【資料3】令和5年度の主な取り組み  
【資料3—1】芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研修（案）  
【資料4】中間年度見直しにおける前回の報告からの変更点について  
【資料5】アンケート（案）  
【別紙1】関係団体対象者  
【別紙2】芸術文化振興プランの取り組み紹介  
【補足資料】大野城市芸術文化振興プラン 基本施策の取り組み

### 1 開会

#### 事務局

小林委員は欠席のため、事前にご意見を伺った。いただいた意見については、各審議事項の内容を説明する際に併せてお伝えさせていただくことを説明。

### 2 審議事項 ①令和5年度の取り組みについて

#### <① 芸術文化情報発信サイト整備>

#### 事務局

（委員より）

サイト内で用いる言葉は検索をかけて引かかるような文言や誰でもとっつきやすいものがよいのではないか。また、「よろず相談所」の機能については、質問や悩みに対し、わかりやすく記すことが大切である一方、専門的なものについては、しっかりとした情報を掲載することが必要である。

サイトが文化の入口、芸術文化のはじまりの部分を担えるとよいのではないか。

## ＜② 芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研修＞

### 事務局

(委員より)

レポーターについては、やってみたい人が多くいるのではないかと。子どもたちのなかにもアーティストに話を聞く、芸術文化を見ることに興味を持っている子がいるはずである。大人がフォローしながら、スポット的に子どもたちにレポーターをやってもらうことも面白いのではないかと。大人ばかりではなく子どもたちも参加できるような入口があるとよい。

また、芸術文化の裏方などに興味を持っている人もいると思う。裏方の部分から芸術文化に触れる機会を作ることも重要。レポーターの取材先として裏方を対象とすることもよいのではないかと。

### 会長

計画をどのように進めていくのか、発信する仕方をどのようにするのかというのはとても重要。研究担当者からしっかりと学びながら進めるようにしてほしい。

### 副会長

ファシリテーターについては、進め方のイメージはできている。一方、レポーター養成では、大野城市にどのような方がいるのか、どのようなニーズがあるのかということが十分にわかっていない。研究期間が2年間あるため、どのようなレポーターの制度があればより良いかということについて、あらゆる方にお話しを聞きながら丁寧に進めていきたい。今年度も講座のようなものは行う予定としているが、これは、回数を少なく設定し、実際にやってみる中で次年度本格的に実施するとしたらどのようなことをすれば良いのかを考える1年にさせて欲しいと事務局には伝えている。その中で、まどかぴあの職員にも参加してもらいたいという話となった。

### 委員

ファシリテーターについては、ももち文化センターで、昨年度に演劇とダンスのファシリテートができる方を講師として呼び、地元の演劇人やダンスをしている人に研修への参加を呼び掛けた。「人を捕まえる」という目的で行ったところ、ダンスのファシリテーターは見つけることができ、今年度ダンス講座を行ってもらう予定となっている。

一方、レポーターのような方は、その存在がわかりにくい。以前は、コミュニティFMや新聞社のまわりなどにレポーターらしき人たちがいたが、現在はどこに居るのかがわからない。その理由としては、レポーターの高齢化や使用するツールが変わったからではないかと。また、今は市民の方々が気軽に発信できるツールを持っているため、まどかぴあについて自主的に発信している人がいるなら、その方を捕まえることができるとよいのではないかと。

#### 会長

多くはないがそれらの情報は、まどかぴあでも探すことは可能であると思う。

#### 委員

誰でも簡単に発信できることから、発信することに目覚める若い方がでてくるかもしれない。その方々を上手く捕まえることができればいいと思う。

#### 副会長

進め方としては、すでに先進的に行っている方をお呼びして行いたい。もう少し若い方の参加については、今後検討したい。

#### 委員

令和5年度と6年度で行うのは研究のみを行うのか、研究と養成を行うのか。

#### 事務局

令和5年度にプログラムを検討し、6年度にその結果をもとに養成講座を実施したい。しかし、6年度だけで養成を完結させることが難しいと考えるため、7年度以降も継続してフォローを行いたいと考えている。

#### 副会長

小林委員の「レポーターを子どもにやってもらおう」というのはとても良いと思う。その可能性について松吉委員に詳しく伺いたい。

#### 委員

小学生の中にも発信に興味のある子どもはいるが、芸術文化に特化すると少し難しいかもしれない。新聞部や放送部などの発信に興味のある学生にやってもらおうのはどうだろうか。中学校、高校、大学に直接依頼することもよいのではないか。

#### 会長

小学生でも体験したことを伝えることは可能ではないか。

#### 委員

小学生は、自分の体験や感想を発信するのは可能。それを広報などに載せることで子どもは発信する楽しさを知ることができると思う。

### <③ 身近な場所での芸術文化イベントの実施及び支援>

#### 委員

体験イベントは周知の方法が重要である。小学生はチラシをよく見ている。思わず行きたくなるような魅力的なチラシを作ることで、それに興味を持った親子が参加してくれる。

#### 事務局

体験イベントのチラシを作った場合、学校で個別に配布をすることは可能か。

#### 委員

大野城市教育委員会の後援や市教育委員会を通してもらえれば配布することができる。

#### 副会長

そもそも、本来、この実行プランは「アウトリーチ」を目指していたのではないか。市の主催イベントの一角での実施となると、そこに来れる人だけが参加できるものになってしまう。「出かけていく」という発想が、誰もが鑑賞できる機会の創出である。市の事業で実施することも重要ではあるが、まどかぴあが既に行っているアウトリーチ事業を拡充していくような動きや、まどかぴあとの役割のすみ分けを整理できればよいではないか。

#### 委員

「誰もが」ということがとても難しい。福岡県でも子どもの貧困はたくさんある。生活が大変な家庭は、芸術文化体験をあまりしない。そのような方々は、芸術文化を鑑賞する心の余裕が無く、参加することがない。そのため、まどかぴあで映画を安く鑑賞することが可能だが、価格の安い高い以前に、心の余裕がないため、子どもに芸術文化に触れさせたいと親が思っていない。親が芸術文化の鑑賞に興味がないと、子どもも興味を持たなくなる。

芸術文化は習慣のようなものであるが、そういった家庭に芸術文化の鑑賞を習慣づけることは難しい。そのような体験はアウトリーチで補うしかないのでは。アウトリーチの実施場所にも工夫を凝らせばよい。

#### 委員

まどかぴあのアウトリーチ事業はとてもありがたい。昔は、小学校の体育館で、無料で映画を見ることができた。小学校の体育館などで実施すると、経済状況や親の送迎など関係なく、友達と誘い合って参加することもできるのではないか。

#### 委員

文化連盟でも文化体験を実施している。昨年度、チョークアートを行ったところ23名ほど集まり、子どもに喜んでもらった。今は、コミュニティセンターで実施しているが、小学校など子どもたちが歩いて行ける場所も良いと思った。

#### 会長

アウトリーチ事業のイベント内容や実施方法については、にぎわいづくり協議会にも聞いてみたらどうか。

#### 事務局

了解した。

#### 委員

小学校では音楽や美術等の授業の中で、ゲストティーチャーを呼び子どもたちに技術を教えてもらう機会がある。学校ではその人材を探している

が、なかなか情報がない。サイトの中にそのような情報があると学校側が活用しやすい。

#### 委員

南ヶ丘1区には祖父母の会というのがあり、様々なことを教える機会があったが、高齢化により自然消滅のような形になってしまっている。子どもに様々なことを教えるよい機会であった。

#### 委員

宗像市の小4企画に関係していて、小学校4年生に音楽鑑賞会を行っていた。鑑賞のルール等について事前授業を行った上で、自分でチケットを見て席を探し鑑賞する体験が、実際のクラシック演奏会に行くことのハードルを下げることに繋がる。当時行われていた吹奏楽演奏会は、費用がかかるため今は開催されていないが、もう少し小さい規模で行えば続けることができたのではと考えている。

### <④ 芸術文化の他分野への活動>

#### 副会長

検証について詳しく説明してほしい。

#### 事務局

連携会議では、他分野での課題や既存事業の内容をブラッシュアップしたい、解決したいことに芸術文化を取り入れてより良いものにしたり、芸術文化の力を生かして解決策を考える会議にしたいと思っている。しかし、芸術文化を取り入れることはまだ庁内に周知できていない。また、悩みやブラッシュアップしたい事業などを集める方法もまだ検討できていない。検討案の作り方、提案方法などのプロセスを考えていきたい。

#### 副会長

連携会議も4年目になるため、新たに追加すべき部署がないかという視点も検討してほしい。例えば、全庁的に広げていくには広報の視点だし、庁内の中には、このプランを知らないが、関わったらおもしろそうな部署があると思う。そういうことについても検証すると面白いと思う。

#### 事務局

了解した。

### 審議事項 ②中間年度見直しについて

#### <中間年度見直しにおける前回の報告からの変更点について>

#### 委員

関係団体のPTA連絡協議会を各校PTAに変更とあるが、各校PTAとは全保護者や教員を対象とするのか。

#### 事務局

各校PTA役員を対象としている。

#### 委員

各校PTA役員1名のような表記にするとよいのではないか。

どのような形でアンケートを行うのか。

#### 事務局

無作為抽出市民については、アンケートの郵送を基本とするが、Webでの回答も可とする。小中学生には学校で使用しているタブレット端末を利用してアンケートを行う。文化団体、関係団体については、文書で回答していただくことを検討している。

#### <アンケート（案）について>

#### 副会長

今回はアンケートの選択肢の細かい部分まで意見を言った方が良いのか、アンケートの目的や設問の関係に意見を言った方が良いのか。

#### 事務局

選択肢の細かい部分までご意見を頂戴したい。

#### 委員

基本施策2—(1)の「この一年間に芸術文化を外出して鑑賞したか」という設問では、「いいえ」と答える人が多いと思われる。「それがなぜか」という設問に「自宅で鑑賞している」という選択肢がある。今の時代、YouTubeを使って芸術文化を鑑賞できるが、それを芸術文化の鑑賞活動としていいのか。世代による状況を考慮したうえでの設問にすべきではないか。

#### 会長

「スマートフォンを除く」でもよいと思う。寝転がって見ることも芸術文化と呼んで良いのか難しいと感じた。

#### 事務局

アンケートではYouTubeで芸術文化を見ることを芸術文化の鑑賞としていいのか。

#### 委員

YouTubeで見ることを鑑賞としてほしくはないが、見た本人はそれを鑑賞だと思ふ。外出してほしいという思いはあるが、バーチャル美術館というものは今は存在する。バーチャル美術館は良くてYouTubeがだめと定義してよいのか。

#### 事務局

この設問の趣旨は、外出して鑑賞したかどうか。また、外出して鑑賞してもらうための解決策を考える設問としたい。自宅での鑑賞の定義について意見はあるとは思ふが、理由を複数回答とすることはどうか。

#### 委員

前回の会議で、アンケートの対象に特別支援学級に通っている生徒も含めるとあったが、多動な子どもは美術館等にいけないため、YouTubeや美術全集を見せている場合もある。それは芸術文化活動にならないのか。様々な事情の方がいる。バーチャル美術館が芸術であって、YouTubeが違うといった線引きをすることも難しいのではないか。

#### 委員

主体的に行っているかということが線引きになると思うが、文章にする  
と難しい。

#### 委員

コロナ禍になって、バーチャルに力を入れるようになったことも事実で  
ある。

#### 事務局

この設問が前回の数値と比較するものになるため、前回のアンケートと  
同様の設問の方が比較、検証できるのではないか。

#### 副会長

大野城市でも、まどかフェスティバルなどの配信を行っていて、インタ  
ーネットでの鑑賞は、否定することはできない。両立することで鑑賞者の  
幅を広げることに必ず繋がる。そのため、設問については前回との検証の  
ために、そのままとし、自宅での鑑賞も多様化しているため、設問自体は  
このままでいいと思うが、更に細かく聞いた方が大野城市の政策のため  
になるのではないか。

#### 事務局

了解した。ご意見を参考に選択肢を検討したい。

#### 会長

全体的にアンケートを簡潔・コンパクトに、答えやすいものにしてほし  
い。

#### 事務局

了解した。意図は変わらずに答えやすいよう工夫することとする。

#### 副会長

このアンケートに加えて、属性についても聞くため、更に量が増える。  
そうなると回答率が下がってしまうのではないか。

#### 委員

前回と同様の設問を取らなければならないのか。

#### 事務局

極力そのようにしたいと考えているが、前回の設問でわかりにくい、答  
えにくいものについては、意図は変えずに、文言を修正したいと考えてい  
る。

#### 副会長

設問によっては、前回5段階なものを2段階としているものもある。逆  
に答えやすさを阻害しているものもある。

また、3－(1)－①の設問において、ランドセルクラブ以外としてい  
るのは何故か。

#### 事務局

みんなが体験したこと以外のことを聞くことで、授業外でどれだけ芸術  
文化を鑑賞しているかを知りたいと考えている。そして、この結果が少な

ければ、授業などで更に芸術文化に触れる機会を増やすなど取り組みの参考としたいと考えている。

#### 副会長

ランドセルクラブや部活は任意のものなので、追加してもいいのではないかな。

#### 委員

ランドセルクラブは概ね親が仕事でいない場合に参加することが多く、芸術文化活動をしたいと思って参加するというよりは、決められたプログラムの中に芸術文化活動があるため参加する。そのため、授業に近いという印象がある。

#### 副会長

子どもたちが芸術文化に触れる機会があるのか、それとも子どもたちに自主性があるのか、どちらを聞きたいのかによって質問が変わってくる。

#### 委員

どこで鑑賞しているのかに「ランドセルクラブ」を入れてもよいのではないかな。

#### 事務局

子どもたちの芸術文化に触れる機会について確認したいと考えていたため、ご意見を参考に修正する。

#### 会長

アンケートについては、意見記入シートに書き込んで提出していただくということでよいか。

#### 副会長

審議会でもう一度検討することができるのかな。

#### 会長

アンケート項目のために集まることはできないか。出された意見を一度確認することは必要である。

#### 事務局

ご意見をお伺いして、会長にご確認いただいた上で、みなさんに確認いただくというのはどうか。

#### 副会長

自治体のアンケートは外注することが多いが、大野城市は職員が行っている。アンケートは一字一句細かく見ていかないといけない。

#### 会長

私と副会長とで事務局と校正してはどうか。校正をしたうえで、委員の皆さんにご確認いただくということはどうかな。

#### 副会長

文化団体であれば、中嶋委員も事前に確認したいと思う。あらゆる方がかかわるため、丁寧に進めていただきたい。

## 事務局

それでは、個別にいただいた意見シートをまとめ、会長、副会長に確認いただき、委員の皆様にもご確認いただきたい。

3 その他

4 閉会